

ISDA® JAPAN MONTHLY UPDATE

2010年5月

コミッティ活動

Accounting: 担当森田(tmorita@isda.org)

5月11日、IASBと円卓会議のセッションを行い、JGAAPで広く適用されている二種類の会計処理に基づく有効性判定の説明、ヘッジ会計の一般的原則および現状に見合ったヘッジ会計について提言を行った。さらに ISDA は、日本の事業会社が、デリバティブをリスク管理にどのように利用しているか、また、今般のヘッジ会計ルールの変更がヘッジ目的で行われる取引に対してどのような影響を与えるかについての説明を行った。IASB のスタッフは現行の日本における慣行に強い関心を示し、ISDA からの提案に対するさらなる情報を求めた。

今回投げかけられた質問に対して、ISDA としての回答を用意した上で、改めてフィードバックを行うこととなった。IASB 側は ISDA のインプットに謝意を示し、引き続き意見交換を行っていきたい旨を述べて閉会した。

Regulatory: 担当森田(tmorita@isda.org)

クレジットデリバティブ:

Japan Credit CCP Working Group は5月21日、日本国内と諸外国における CCP の規制動向、ならびに一部本邦クレジットデリバティブにつき中央清算機関を通じた清算を義務付ける法律に関して、ワーキンググループから金融庁宛に提出予定である確認・要望書のドラフトについて話し合うための会合を開催した。確認・要望書ドラフトには、メンバーから挙げられた懸念事項と、確認・要望点（規制対象となる当事者や取引タイプ、クロスボーダー取引の取り扱い、CCP で清算される取引の自己資本規制上の取り扱い等）が記載されている。今後の予定として、6月上旬に金融庁に確認・要望書を提出し、6月中旬に当局とミーティングを行うことにつき合意した。

本ミーティング後、一部メンバーからの要望を受け、ISDA は WG の要望書ドラフトの英語訳を作成、WG メンバーに回覧した。

Credit Derivatives: 担当難波(knamba@isda.org)

マーケットプラクティス:

ISDA は、主要商品の取引量を計り、また本邦クレジットデリバティブ市場の発展を妨げる要因を明確にすることを主目的とした市場調査、2010年 ISDA Japanese Credit Derivatives Market Survey、を行った。結果は Japan Credit Derivatives Committee のメンバーに報告される予定。

オペレーション:

5月14日に行われた APAC Credit Operations Working Group の定期ミーティングにおいて、Japan CAC Protocol の対象である既存の日本銘柄 CDS 取引について、DTCC 上で Calculation Agent City を近く一括修正することの是非について検討した。ワーキンググループは、Trade Date を5月24日付、Effective Date を25日付として一括修正をすることで合意した。

Weather, Commodities & Developing Products: 担当森田(tmorita@isda.org)

不動産デリバティブ

5月28日、不動産デリバティブ・ワーキンググループは、本邦不動産インデックス用コンファメーションの雛型について会合を開き、意見交換を行った。雛型のほか、不動産デリバティブをめぐる市場の問題点についても検討がなされた。

コミッティ並びに作業部会会合/コンファレンスの予定

“Consent = Confirmation” industry education call
(英語による電話会議)

6月17日(tbc)

ISDA Symposium – How to read ISDA Netting and Collateral Opinions
(日本語によるコンファレンス)

6月17日